

《加賀地方花鳥図刺繍壁掛》 二枚

昭和三年（一九二八）

刺繍

各総二二九・〇×一三八・〇







昭和の大札に際し、金沢市より献上された二枚の壁掛である。壁縮緬と呼ばれるしほの強い絹織物に、刺繡によって、右には霊山として名高い白山に見られる高山植物とライチョウ、左には松竹梅に加賀平野の鳥五十種を取り合わせて表している。縁には「萬歳」の文字と花文を染め抜く。刺繡は金沢輸出刺繡業組合の推薦により中村伊三松、松谷公弼を中心に于行われ、友禪染は金沢染物同業組合が担当した。織物や刺繡、染めには金沢の優れた工芸技術が尽くされていると同時に、それぞれの草花と鳥は、図鑑から抜け出たように、その

特徴を正確に捉えて表されている。図案については、白山の高山植物とライチョウを玉井猪作（敬泉、一八八九～一九六〇）が、加賀平野の鳥類を市川昌徳（生没年不詳）が考案した。献上願によれば、これらの主題を採り上げた理由として、大正十三年（一九二四）に皇太子（昭和天皇）が石川県に行啓された折、白山連山の高山植物、加賀平野の鳥類についてご説明を受けており、この壁掛けをご覧になって「御追想を蒙ること」は金沢市民にとって無上の光栄であると記されている。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 大礼 ― 慶祝のかたち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 85

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

令和元年九月二十一日発行

©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan